

2024年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	明治大学体育会ローバースカウト部
活動テーマ	気仙沼市における子供デイキャンプ開催を通じた地域活性化
活動期間	2024 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 10 月 19 日
主な活動場所	宮城県気仙沼市
連携地域 連携団体等	気仙沼市役所、気仙沼市内の小学校
活動者数	30 名 ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

今年度の地域連携活動では、テーマを「Unforgettable-記憶に残す-」と設定している。13年前に震災の被害にあった地域と連携して活動することで、参加する部員は失ってはならない教訓や思いを改めて記憶に刻みたい。さらに、子供たちには、普段味わえないような経験や新たな考え方や視点を記憶に留めてほしい。以上の2つの効果を期待してテーマを据えた。

気仙沼市は人口減少対策を大きな政策課題に挙げている。100名規模の市民が参画する「けせんぬま未来人口会議」において、人口減少対策のための行動計画「～こどもと女性の瞳かがやく～ けせんぬま Well-being プラン 2024」が今年の5月31日に策定されたばかりだ。ここでは人口減少対策に必要な施策・取組の1つとして、子育て環境の更なる充実が挙げられている。子供デイキャンプの開催は地域の子供たちに新鮮な経験や学びの場を与えるものであり、子育て支援の一環として地域の活性化につながる事が期待される。

さらに、けせんぬま Well-being プランでは、子育て環境の充実に関するテーマとしてとして「子育てしやすく『こどもの瞳かがやくまち』を創り出す」と掲げている。このデイキャンプは市内の野営場で行い、子供たちに彼らの住む気仙沼の自然の魅力を伝えるという目標も持つ。自身の住んでいる地域に対して理解を深めることでこどもの瞳をかがやかせることができるだろう。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

明治大学体育会ローバースカウト部は、2011年に東日本大震災の被災地奉仕活動に従事した。それ以来、明治大学の被災地ボランティア活動の一員として東北地方太平洋岸での地域連携活動を続けている。気仙沼市における子供デイキャンプもその一環として毎年開催しており、今年度で9回目の開催となる。昨年は41名の児童に参加していただいた。2回目、3回目の参加となる児童も幾人かおり、恒例のイベントとして根づいていることを実感している。来年度以降も、当部の主要な活動の1つとして気仙沼市との連携を継続していく。下の写真は昨年の活動の様子である。



この活動ではローバースカウト部の担当者が企画・立案を行い、気仙沼市役所の職員の方々との打ち合わせを経て計画書を作成する。参加児童の募集は気仙沼市内の小学校で行っている。部の担当者が作成したポスターを小学校で掲示していただくとともに、募集のプリントを配布していただくこと

でイベントの広告を行っている。プリントから QR コードを読み取りインターネット上で応募ができる仕組みになっている。

子供たちへ新しい経験と学びを提供するために、デイキャンプのテーマを設定している。今年度は「昭和の文化」をテーマとし、昔遊びや竹馬、竹とんぼ、昭和をイメージした料理などのプログラムを準備している。

活動スケジュール

5 月 18 日：部のスタッフ会議にてデイキャンプの企画書および下見計画書の内容を検討。（済）

6 月 6 日：部の地域連携担当者による気仙沼市の現地下見および打ち合わせ。

6 月中旬～：現地の小学校にてデイキャンプ開催を告知。

ローバースカウト部で参加部員を募集、決定。

6 月末～：デイキャンプの参加者を募集。

7 月 13 日：部のスタッフ会議にてデイキャンプの計画書の内容を検討。

8 月中旬：参加者の募集を締め切り。

9 月上旬：参加者へ「デイキャンプのしおり」を郵送。

9 月 14 日：JR 気仙沼駅で参加部員集合。前日準備。

9 月 15 日：第 9 回気仙沼市デイキャンプ開催。

9 月 16 日：気仙沼市見学、部員解散。

10 月：活動を振り返り、次年度に向けて検討。部会において地域連携活動を報告。

活動成果

体育会ローバースカウト部の恒例行事として、気仙沼市と連携し、小学生を対象とする子供デイキャンプを開催した。主な活動内容を事前準備、デイキャンプ当日、活動後にわけて記載する。なお、児童のプライバシーに配慮し、活動の様子を記録した写真は一部を加工している。

I 事前準備

4 月から部の地域連携担当者が気仙沼地域連携活動の内容の検討を始めた。6 月 6 日に気仙沼市役所とデイキャンプ会場の御崎野営場を訪れた。役所の担当者の方々と打ち合わせをするとともに、会場を下見した。7 月までに参加者募集ポスターと募集案内のプリントを作成した。市役所の方に依頼する形で、気仙沼市内の小学校 10 校にて、ポスターを掲示しプリントを配布した（図 1）。定員の 30 名を上回る応募をいただき、抽選と調整の結果、31 名の参加者に絞った。8 月 19 日に各参加者へしおりを発送した。9 月には必要備品の購入や直前準備を進め、9 月 10 日に気仙沼市の御崎野営場へ野営の装備を発送した。9 月にデイキャンプの運営表を作成し、9 月 12 日に参加部員全員で運営表を読み合わせた。

9 月 14 日に参加部員が気仙沼市に集合した。翌日のデイキャンプ開催に向けて御崎野営場で設営を行い、竹を使うプログラムのために竹の切り出しと加工に取り組んだ（図 2）。



図1 掲示したポスター



図2 竹を加工する様子

Ⅱ デイキャンプ当日

9月15日のデイキャンプ当日は欠席者が出たため、児童の参加者は26名となった。天候に恵まれず雨が降っていたが、タープや炊事場の屋根を活用して野外で活動した。児童を5つのグループに分け、各グループに大学生を3名ずつ配属し、その他の大学生がプログラムを運営した。実施したプログラムを以下に列挙する。

① 昔遊びプログラム

アイスブレイクとして、いろはに金平糖という遊びをした。子供たちに聞いてみたところ、知っている児童はいなかったため心配していた。しかしみんなでルールを理解して、楽しそうに遊んでいた。途中、雨が強くなったりしたが、タープの下に移動するなど、各班で臨機応変に対応することができていた。隙間時間に子供たちから「いろはに金平糖やりたい！」という声が聞こえてきて、うれしく思った。



図3：学生と子供たちが一緒にいろはに金平糖をする様子

② 昭和っ子ハイキングプログラム

野営場を出発して、気仙沼・唐桑コースをハイキングした。CP（チェックポイント）を3つ設置し、それぞれで昔遊びを体験した。CP1ではけん玉、CP2では紙風船と風船の比較、CP3ではお手玉の体験を実施した。けん玉は、児童にいろいろな種類のけん玉に挑戦してもらい、種類による違いを知るとともに、大皿やとめけんなど様々な技に挑戦してもらった。紙風船は円になってどれだけつなぐことができるのかに挑戦した。子供たちにとって紙風船は馴染みが無いようで、かなり難しそうだった。風船でやってみると紙風船より難易度が低く、より楽しそうにしていた。CP3では「あんただかどこ

さ」の歌詞カードを配り、歌いながら歌詞の中の「さ」の部分でお手玉を隣の人に渡すというルールでゲームを行った。どんどんお手玉の数を増やすことで難易度をあげていくと、どんどん盛り上がっていき様子だった。



図 4：CP でけん玉に挑む様子



図 5：森の中を歩く様子

③ 夏だ！スイカ割りプログラム

雨が降っていたので、タープの下で実施した。ハイキングプログラムで早く野営場に到着した班から順番にスイカ割りをした。竹藪から軽くて持ちやすい竹を切り出して、子供の手に怪我が無いよう入念にやすりをかけることで怪我を防ぐ棒を作成し、スイカを割る棒として使用した。



図 6：スイカ割りの様子



図 7：自ら割ったスイカを嬉しそうに食べる様子

④ 昭和レトロ喫茶店プログラム

焚火を使って野外で調理し、冷凍庫を使わないアイスクリームの入ったメロンクリームソーダも作った。メニューは野菜とソーセージの入ったケチャップライスだ。地元の米を使ってほしいという気仙沼市役所からの要望を受け、米は宮城県産のひとめぼれを採用した。反省点は、普段はガス缶で調理を行っていることから、焚火を使用した調理に慣れておらず、手間取ってしまったこと。また、そのために想定よりも時間が押してしまったことである。しかし、子供たちにとって、ガスやIHではない、焚火を利用した調理は刺激的な体験になったと感じている。

アイスクリーム作りは、大小 2 つのジップロックを用いて行う。まず、小さいジップロックに生クリーム、牛乳、砂糖をいれてしっかりと口を閉じる。そして、大きいジップロックに氷と山ほどの塩を入れ、さらに小さいジップロックも入れて、タオルでくるんでしばらく揉む。氷と塩の化学反応により温度が零度以下まで下がり、冷凍庫を使わずにアイスクリーム作りができるのである。事前に練習を行い、当日も丁寧に工程を説明した為、成功している班が多かった。子供たちも興味を持って楽

しんでいたのが良かったと思う。



図8：学生に見守られながら児童が焚火で調理をする様子



図9：ジップロックに材料を詰め、アイスクリームを作る様子

⑤ 竹で遊ぼうプログラム

竹ぽっくりと牛乳パックを使った竹トンボで遊ぶ予定だったが、竹弓もすることにした。竹ぽっくりが雨で遊べなくなったときに時間が余ることを懸念したためである。調理プログラムの時間がおしたため、当初の計画通りにはいかなかったが、雨の中でも竹ぽっくり、竹トンボ、竹弓を全員楽しそうにできていたため胸をなでおろした。



図10：竹弓で遊ぶ様子



図11：竹ぽっくり

タイムテーブル（カッコ内は予定）

7:55(8:00) 受付開始

9:01(9:00) 開会式、昔遊びプログラム

9:49(9:50) 昭和っ子ハイクプログラム

11:35(11:10) 夏だ！スイカ割りプログラム

11:52(11:30) 昭和レトロ喫茶店プログラム

14:29(13:35) 竹で遊ぼうプログラム

15:44(15:45) 閉会式、集合写真撮影

15:53(16:00) 解散

プログラム全体の総括を述べる。活動目的で挙げた「Unforgettable-記憶に残す-」というテーマに沿って、子供たちに記憶に残る思い出を届けることができたと感じた。地元の宮城県産の米を利用し、焚火で行う調理や、竹を活用した遊びといったプログラムは、気仙沼の子供たちに新鮮な経験や学びの場を与えることができた。よって、子育て支援の一環として地域の活性化につながっ

たと評価している。また、保護者の方々へ向けて実施した事後アンケートでも、子供たちが楽しんでいたことが伝わってくる（図 13）。さらに、アンケートからはこのイベントが毎年の恒例として根づいていることが読み取れる。これからも継続して開催できるように、部員一同気を引き締めて取り組んでいく所存である。



図 12：閉会式時の集合写真

く 気仙沼デイキャンプ参加者様… 🏰 🚩

質問 プレビュー 回答 12 設定 アナリティクス

🗑️ 🖨️ 📱 📺 ➕ 🔍 保存

雨が心配でしたが、1日ととても楽しかったようです。帰りもずっとニコニコしていて、そして…

初めてのデイキャンプの参加でした！
はじめは不安でしたが、お兄さんとお姉さんがたくさんいることを知って安心しました！
こんなことしたよー！とたくさん帰りの車で話してくれました！
また機会があれば参加させたいと思います！
今日はありがとうございましたー!!...

毎年気仙沼に来て頂いてありがとうございます。

準備から当日の運営、ありがとうございました。
子どもお兄さん、お姉さんや他の学校のお友達と交流ができ、とても楽しめたようです。

お世話になりました。昨年も参加させて頂き、楽しかったからまた行きたいと言われていたので…

遊んでいる様子を、遠くからでも良いので写真が…

昨年に引き続き参加させて頂きました。大学生の…

親から離れて何かをする経験が浅いので何かと不…

図 13：Google フォームで実施した事後アンケートに寄せられたコメント

Ⅲ活動後

集合写真を印刷し、メッセージカードを添えてデイキャンプ参加者の子供たちに発送した。

10月19日に、体育会ローバースカウト部の部会において活動報告をした。自己評価や反省も交え、次の代につながる報告を心がけた。



図 14：報告発表の様子